

Sermon on the Mount

サーモン オン ザ マウント

知っておきたいキリスト教のことば (83)

山上の説教 さんじょうのせつきょう

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」から始まるイエス様の説教は、「山上の説教」または「山上の垂訓」と呼ばれます。マタイによる福音書の5章から7章に書かれており、その中には幸いの教えや主の祈り、倫理的な勧告などが含まれます。

マタイによる福音書の中では、イエス様は宣教を開始される時に山に上られて、この教えを説かれたとあります。しかしルカ福音書の並行箇所ではイエス様は平地で説教をされています。シナイ山でモーセが律法を与えられたように、山は啓示の場所として考えられていました。マタイはそのことを強調したのかもしれませんが。

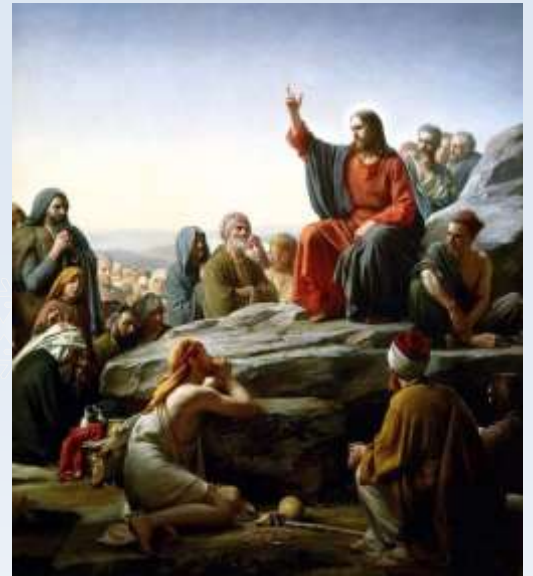
この説教には、キリスト者としての姿勢と行動が示されています。しかし外面的な行為だけでなく、内面的な心情についても言及するなど、忠実に守ろうとするととても厳しい言葉も多くあります。

昔からこの山上の説教の要求は、実現できないものであると考えられてきました。ではなぜこの説教は語られたのでしょうか。それはこの教えを聞くわたしたちが自分の罪の深さを認め、神さまによらなければ受け入れられない自分の気づくことにあります。

「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。しかし、わたしは言う。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。」(マタイ 5:21~22)

この教えを忠実に守ることのできる人などいるのでしょうか。自分の力だけでイエス様が求める人間になることはできません。神さまからのお恵みがなければ、わたしたちは神さまの前に立つことなどできないのです。だから神さまを求めていくのです。

次回は「賛美歌」です。お楽しみに。



「山上の説教」

カール・ハインリッヒ・グロッホ

(1834~1890年)

心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

(マタイによる福音書5章3節)

